

# 現役保健室の先生への 取材調査

## 【調査概要】

- 調査日:2025年5月13日
- 調査方法:個別取材(オンラインヒアリング)
- 対象者:公立学校に勤務する現役の養護教諭Aさん(保健室の先生)
- 保有資格:看護師免許
- 臨床経験:なし
- 調査目的:「保健室の先生の働き方」に関する実態把握のため

質問:保健室の先生のやりがいについて教えてください。

回答:

一番のやりがいは、子どもたちを助けられることです。  
体のけがも心のけがも、少しでも和らげてあげられる。  
自分の力で直接助けられなくても、適切な人に繋げて  
子ども達を支えられます。

成績をつけなくて良い職種なのも私に合っていると感じます。  
保健室経営は、自分なりのペースや方法で  
進められる点も魅力です。

保健室の先生で良かったと思う瞬間は、  
子どもたちから感謝された時です。  
その場で言わなくても後日  
「あの時先生にこうしてもらえて嬉しかった」  
「先生の挨拶で元気になれた」と  
伝えてくれることがあります。

異動する時、必ず何人か手紙をくれる子もいて、  
その一つ一つが私にとっての宝物です。

質問:保健室の先生の大変なことをについて教えてください。

回答:

大変なのは、ひとり職であることです。

保健室の先生は基本学校に1人しかいないため、スムーズに進めるためには周囲の先生の理解や協力が必要です。

分からないことがある時は、他校の養護教諭に相談します。

でも、学校ごとにやり方が違うため、情報を集めて自分の学校に適した方法を考える必要があります。そのためには普段から担任や上司との丁寧なコミュニケーションが欠かせません。

また、学校医など、外部の関係者との関係づくりはとても大切です。

専門職や外部機関との橋渡しの役割もあるため、難しさを感じることもあります。

もう一つ大変なのは「分掌(ぶんしょう:学校の担当)業務」です。

健康に関係しそうな業務は何でも「養護教諭の仕事」とされがちで、本来の職務以外の負担を感じる時もあります。